

刊夕日四十月十



定価一冊五錢... 発行所 常磐山日新聞社... 電話 六三〇番

臨濟四料簡

眞繼 雲山

「これはく」とばかり花の吉野山」といふのは、花に吞まれてしまつた俳人の詠嘆である。

伊勢の國に筆捨山といふのがある、そのむかし書聖狩野法眼がこの山を通りかゝつてその景色を寫し取らうとしたが、あまりの絶景に筆を投じて去つた處だといはれる、尤も一説には左ほどにもない平凡な風景なので筆にする價值はないとて去つたのであるとも傳へられる。

若し前者が眞であつたとすれば、花の吉野山と同じやうに境に吞まれたのであり、若し又後説が事實でありしとすれば書聖が境を吞んだのである、何れにしても筆を投じたことだけは事實らしく、それがため筆捨山の名が残つたものと思はれる。

でなしに程よい調和の保たれてゆくところに繪も出来るし人生も建設されてゆくのである。

夫婦だつて同じ理窟である亭主があんまりニラ過ぎて女房を二束三文ののんでしまへば、幸福な家庭生活は得られず、左りとして山の神が亭主を敷くやうではま

ノット

靴下の型の大き過ぎるのば微温湯に数滴のアンモニヤ水を滴しその中に四五時間つけて置くと縮みます

すゝ助からぬ、こここのころは矢はり

「オイお何や……」

「ねえあなた……」

といふ邊で、持ちつ持たれつゆくとところに人間生活圓滿に運ばれるのであつて、人生は本来さうした風にくられてゐるのである、これが人境俱に奪はずと教へらるゝ臨濟四料簡の結論である。

四料簡といふのは臨濟義玄禪師の示された禪の軌範であつて次ぎの四句より成る。

人を奪ふて境を奪はず、境を奪ふて人を奪はず、人境兩つながら奪ふ、人境俱に奪はず

といふので第一の「人を奪ふて境を奪はず」といふのは狩野法眼が絶景に吞れて筆を投じた處人が無くなれば大自然の物質界だけが残り、第二の「境を奪ふて人を奪はず」といふのは法眼が天地をのんで筆を投じた處、境が無くなれば萬法唯一心外無別法で森羅萬象二人事百般は夢の如く空華の如きものとなる、第三の人も境も無くしてしまへばそれは絶対眞空、離言絶慮で何とも早や申しやうがないしかし理として一切は皆空無常であるにせよ、事實はその皆空から森羅萬象一切が假出してゐるのでたゞ、妙有といふの外はない、これが皆空から出て來うばはざる玄底である。

書聖法眼が名畫を遺したのは人境二つながらうばつたのであり夫婦の圓滿なる二明日の献立二

(朝) さつま芋 ねぎ汁 (晝) 八つ頭 生揚 煮 (晩) 肴煮付 あられ生姜

は交互にのんでしまはぬに由る、花の咲くのは土と水と太陽との調和によるのであり、禪の玄底は結局平凡なる日常の茶飯事に現はれるのである

てゐるので眞言宗ではこれを「即事而眞」といふ人を空じ、境を空じ、人境ともに空じた體驗の上に妙有を看板するならばそれは破顔一笑、何ともいへぬ境地であり、假りにこれを人境俱不だつとしてそこに宇宙の妙用を見たのである。

花も水も人間生活も決して満たされた形ではないが満たされざるものであるゆゑ、そこに進化があるのである、そこに進化する真の理由の流れてあつて停着するところは無い、その眞理の流れに揖して歩むのが悟りの生活である。

笑話

▼どつちが本當妻「貴男訪問者買つて下さらない……」夫「ウーン」妻「ネーそれから黒狐の襟巻も欲しいワ……」夫「ウーン」妻「まあ嬉しい……でも貴男あんまり返事が好すぎでよーまさか駄目なんて……」夫「ウーン」



平町風物歌(一) 島田忠夫

○平驛前小見 秋さびし果物ならべる果物店にラムプ屋は來てつと立ちにけり ○ラムプ屋老ゆ にぎ面ひげは伸びたち老いにけるラムプ屋あはれ住む家なしに

ツブシ・金銀 高價買入 修繕迅速 町寧廉價 星野時計店 平三丁目驛前通り

秋ヲ代表 イタシマス洋食 松茸ライス キル茶 松茸フライス ポール 松茸ステーキ 茶 洋食・喫茶・宴会 コシニパール 電話 六六六番

上田外科病院 平町南町 電話 二一九番

季節御料理 鳥松茸 よせなべ 井類種々 右大々勉強 出前迅速 ◎滋養豊富! 風味美味! 是非一度御試食を…… 大蒲焼・鳥料理 壽司・折詰仕出し 魚榮 田町(電話四二四番)

三井夕クシ 目丁二町平 番五八六話電

滿洲上海事變の 慰靈臨時忠魂祭

式次第係員決定

石城町村支會、在郷軍人、石城郡聯合分會主催滿洲上海事變による郡内出身兵八氏の慰靈臨時忠魂祭は既報の如く明十五日午前十時から平町松ヶ岡公園忠魂碑前に於いて遺族を始め第二師團留守司令官、知事各れも代理以下關係各方面から朝野の名士多數參列の上盛大に舉行される事となつたが當日の式順は

- 一、午前十時同式場參列
- 二、石城郡支會長開式の旨を告ぐ
- 三、祭式神祭式佛祭式
- 四、支會長祭文
- 五、在郷軍人聯合分會長祭文
- 六、來賓祭文
- 七、第二師團留守司令官 福島縣知事 歩兵第二十九聯隊留守隊長 福島聯隊區司令官 武徳會分會長 其ノ他來賓
- 七、司會者拜禮
- 八、來賓拜禮
- 九、遺族傷兵一同拜禮
- 十、在郷軍人一同拜禮
- 十一、老兵會員一同拜禮
- 十二、赤十字社員一同拜禮
- 十三、愛國婦人會員一同拜禮
- 十四、一般參列者一同拜禮
- 十五、學校職員生徒兒童拜禮
- 十六、商業學校 高等女學校 私立學校 青年訓練所生 小學校
- 十六、遺族傷兵へ神酒及供物を

尙祭典係員は
(總務)山崎清三 鈴木榮
藤田榮助(受付係)係長佐藤伊太郎 大間喜繁 増子富治 薄葉健一郎 石坂一雄 吉田憲英(祭典兼式場係)係長藤井一吉 吉田定正 遠藤心光 松田賢雄 松本幸平 關内

女生徒對抗競技

メンバー交換終り 出場チームは八校

既報来る十七日磐城高等女學校秋季運動會當日の呼物郡下各小學校對抗女兒童競技會の申込は昨日限り締め切つたが申込み校は八校にて當日の役員及び各校の選手名は次の如くである

- △役員(出發合圖)永島(決勝審判)穴井 土岐 日野 新妻(途中審判)大内 鈴木 志村 佐藤(計時)田中 酒井(召集)山口
- △選手(平二)中村春子 丸山八重子 阿部弘子 鈴木登美子(平三)高野弘子 鈴木ひで 今田操 大越ツカ(四倉)鈴木チカ

盛況

中島判事の 調停法講演

既報平十三日會では十三日午後七時より丸友ホールに於て例會を開き平區裁判所

漁港工事寄附金の起債認可さる

四倉町の地元寄附金は 前例のない町債で支出

石城郡四倉漁港工事は町六万圓の地元寄附決定に伴ひ万圓の地元寄附決定に伴ひ同町當局では此の寄附金全部を町債によるべく過般縣當局に此の起債認可を申請したが寄附金の起債は前例がないので縣當局で研究中であつたが愈々去十一日付を以つて認可の指令に接したので同町では直ちに起債の準備に着手した

地米相場動かず

郡下稻作平年作以上で 収穫後の値下を見越す

上級生に 禮儀作法教授

平第二小學校では從來高等科の生徒に對し修身の時間に併せて禮儀作法を教授してゐたが今後は作方科の教科書を使用し尋常科第五學年以上の生徒に對し教授する事になつた

柿共同出荷協議

石城郡大野村果樹組合では来る廿日午後一時より小學校に於いて柿の共同出荷に

平町人事

△四丁目一二 佐藤英治郎 氏四女富子
△南町四九 當時岩手縣岩手郡淺岸村字新庄鈴木佐多平氏二男住夫
△回死 亡
△胡摩澤五六 當時東京市板橋區上板橋六丁目四九四五 松永三司代姪富世(一ツ)

警中職員勝つ

警城中學校職員對磐城高等女學校職員チームの野球試合は昨日午後二時より磐城グラウンドに開戦九對八のクロスゲームで警中職員チームが辛勝した

高久村會

石城郡高久村々會は昨日午前十時より同村役場に於いて開會匡救土木事業の件其他を附議した

秋季運動會

石城郡小川郷村では本日午前八時より同村小學校に於いて青年團青年訓練所聯合の秋季運動會を催したが赤井村第二小學校及び植田校等も本日運動會を開催した

合格者

平署管内 合計六名

過般福島で行はれた第五回自動車運轉手試験の結果平署管内の合格者は左記六名である
(甲種)草野照雄 佐藤冬橋(乙種)上遠野弘 本部保嘉 鈴木西藏 村上金八

中村齒科醫院

平町鍛冶町七

藤沼醫院

平町紺屋町 電話五〇七番

難波醫院

平町新川町 電話五〇二番

嚙り付く山下課長 断然被免さる

一三町議の策動効なし 後任は新町長決定後に

平町水道課長山下勝慶氏に對し平町當局では上水道擴張工事竣成後圓滿辭職を要望伏見町長から同課長に再三勸告する處あつたが山下課長は女々しくも嚙り付き其々町議を動かして飽迄も

留任せんと病氣欠勤

届を提出し其の態度は一般町民非難の的となり伏見町長辭職の裡面には山下課長問題ありとさへ言はれてゐたが山下課長の欠勤届期間たる十二日またぞろ追欠勤届を提出し其の嚙付の執拗さに酒井助役も激昂殊に強

悪例を残すものとし

て断然たる處分に出すべしと迫る者もあり遂に町當局は十二日山下課長被免を決意直ちに書留郵便を以つて山下氏に解職を通知したが紛糾した水道課長問題も此の町當局の断固たる處置に依つて

一段落が付いた尙後

任課長は柴山技師を昇任する事に内定してゐると傳へられてゐるが町長の後任決定後新町長によつて任命を見る筈である

耳よりな話

職工大募集

平紹介所の宣傳奏功し 大量求人申込續出す

既報去る十日全町内に亘つて行はれた平職業紹介所の求人開拓總動員の宣傳は非常な良成績を得宣傳當日より本日迄に求人希望者が卅一口に達し從來一日平均二三口の申込とは非常な相違を見せ係員を喜ばして居た折柄本日はまた某大鐵工場より日給一圓五十錢の職工十名の求人申込があり係員

(三)に對する殺人事件の公判は昨日午後一時より平支部で公判開廷の豫定だつたが都合で無期延期

若松大佐 歓迎

各小學校が

既報来る十五日石城郡赤井村出身前騎兵第二聯隊長若松大佐が聚樂館に於て講演の爲め來平するので當日平町小學校では第五學年以上の生徒が國旗を持つて驛頭に

叩いた男と叩かれた男

兩方から告訴

擲つたのは二人組...

平署取調を着手

石城郡箕輪村大字高野字平石居住鈴木熊雄(三)同高萩安吉(三)の兩名は去る七日同字の鈴木徳雄(三)から魚泥棒だと悪罵されたのに憤慨し十日朝兩名は鈴木方に押掛けて鈴木を毆打全治一週間の傷害を加へた上改めて鈴木に謝罪させたので鈴木は今十四日平署に傷害罪で告訴したが今度は高萩鈴木の兩名が反對に鈴木が自分達の名譽を毀損したとの理由で此れまた告訴を提起したが平署では早速取調に着手した

四倉蘭市況

出廻僅に三十九貫

平裁判たより

四倉蘭市場の十三日の取引は三十九貫と云ふ近來になり荷薄を見たが値段は最高五十二圓二十錢、最低四十二圓八十錢、馴五十圓となり前日の相場より稍々強氣を見たが今後は同相場を前にすると見られてゐる

巡査試験

受験者百餘

本日本署で

既報本縣巡査の採用試験は

明日のラジオ

十五
今晚は北東の風曇り明日は北東の風曇り夕刻には雨模様

今晚の部

後六、〇〇 子供の時間
お話「秋の草花」野間守人

明日の部

後七、三〇 講演「滿洲と化學工業」日本學術協會
後八、五〇 連続講演「關根彌太郎」田邊南龍

順延)六大學野球リーグ
戦況合況慶應對立(第一回戦明治神宮外苑球場より中継)
後二、〇〇(野球放送なき場合)婦人講座(最も尊い生活)早稲田大學教授 帆足理一郎
後五、三五 講演 仙臺高等工業學校開校二十五週年を迎へて仙臺高等工業學校長新保徳壽
後六、〇〇(子供の時間) 童話劇「靴屋のうた」熊本童話劇協會
後六、二五 英語講座 中等科(二ノ六)ジョーケイ

回求職の部

△雑夫 二十九才 尋卒
給料面談(平町某)
△文撰工 三十三才 高卒
給料面談(大浦村某)
△外交員 三十一才 高卒
給料面談(内郷村某)
△女中 四十三才 文字を解す給料面談(平町某)
△給仕 十六才 高卒 給料面談(好間村某)

御料 鹽 豚

町田三三屋

電話三三三番

禁酒令

【禁酒令上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

第一百七十四席 平手造酒

造酒遂に禁酒を破る
平手造酒は勢力と共に鹿島に來て富田屋といふ旅宿に草鞋を預けこの祭禮を見物したがその賑やかな事神樂堂では三十五座を上げ神殿では餅を撒く、作り人形飾り庭或は掛額皆意匠を凝らした物ばかり、町内は花車を曳き踊り屋臺などを擔ぎ廻る、境内には觀世物があつて人の息で蒸返るやう神輿が渡ると古色蒼然たる鎧兜を身に付けた若い者が六尺棒を持つて警固する、造酒は先づ鹿島大明神を參詣して息災延命を祈り、それから要石を見物した、是は昔水戸光圀公が鹿島に來て此石を掘らしたが、何處まで掘るもその根を見ることが出来ななだとか、さうでせう何萬貫あるか知れぬ大石が地に埋つて居ることゝ掘ればそこが重みで尙埋まるから根を見ることが出来なくなる、そこで要石と名付けたさうですが、平手は是も見物してそれから飯篠長威齋の道場を見した、飯篠は北條氏康の家臣で山城守と申したが入道して長威齋、鹿島の神樂新嘗をかけ夢上に刀法の極意を



の者を見張つてゐる、白縮の單衣には淺黄にて桔梗の紋、嘉平次平の袴を穿き、蠟色艶消しの大小を帯し扇を披いて風を送つてゐる、その隣は土浦の大塚の皆次倉田屋の文吉續いて飯岡の助五郎、神崎の友五郎、風

窓の半次、皆是等は顔役ですが、何れも賭場を開いてゐる、表には賽錢勘定場と高札が出てゐる役人は目明しを伴れて賭場を見廻り役「何うだ賽錢は上つたか」
○「大分上りましてございます」
役「それは何程かお初穂を俺に差出せ」
杯と一軒一軒廻つては金を集める、三日の間賭場は公許、造酒は四邊を見ながら扇遣ひをしてゐたがそこへ若い者が茶を持つて來まして「先生、餅をお上りなさ

若「そいつはいけません、お前さんは三日の間禁酒をなすつたとの事、呉々も親分から先生に酒を飲ませるなと申し付けられて居りますから御酒を上げる事は出来ません」
造「ウームさうか、そんな約束をしたかな忘れてしまつた、ウーム大分酔つた奴が表を通るな、面白さうだな、アア來るではないもの、アア來るではないものを名所と人物は遠く離れて聞くに限ると云ふが、來て見るとさして風情もな

「酒なくて何の己れが櫻哉」
ア、詰らない、平手は酒が飲めぬに失望した然しデツと二日迄耐へた、十六日の正午過になると顔の色が蒼くなつてウームと吐息を洩してゐる之を勢力が見て
富「先生、どうかなさいますか」
造「何となく気分が悪い」
富「人の氣で蒸された爲でございませう、チト外を歩いて風に吹かれてお出でなさいませう、然し酒を飲んではいけませんよ、甘酒ならば宜しうございませう、これは小使にお持ちなさい」
二分くれた
造「是は千萬泰けな、外へ參つて甘酒でも飲んで參る」
賭場を出たが

屋は何處か、ウン此處が宜しから」
と駿河屋といふ料理屋に入ると座敷には大分客が居ります
造「コレ、女、肴は何がある」
女「鯉のすつぽん煮がございます、それに鱸に鰻でございます」
造「これ女、そんな物では酒は飲めぬ、淡白した物はないか」
女「鯉の洗肉がございませう」
造「ウーム、さうかデハ鯉の洗肉に鱸の蒲焼を持つて來い、鰻は蒸しにけかぬから脂が多いであらう、酒は五勺持つて來い……」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」

「是は只の茶だな、氣のさかぬ奴だ、岸の灘で造つた茶を入れて參れ」